

# PKO陸自一時拘束

## 南スーダン政府軍の誤解

南スーダン国連平和維持活動(PKO)に参加している陸上自衛隊部隊の隊員が十八日午前十時(日本時間の同日午後四時)ごろ、調達業務中に現地の南スーダン政府軍に一時拘束された。防衛省が発表した。拘束された隊員は五人で、約一時間後に解放された。けがはない。

防衛省によると、武器の取り締まりをしていた南スーダン政府軍が、国連要員が対象外と知らずに陸自隊

員を拘束した。南スーダン政府は日本側に「誤解があった」と謝罪した。

南スーダンPKOは現在、日本が参加する唯一のPKO活動。安倍晋三首相が今月十日に陸自部隊について「五月末を目途に活動を終了させる」と表明したばかりだった。

南スーダンで陸自隊員が拘束されたのは初めて。過去のPKOでも拘束される事案は把握していないとしている。隊員五人はジュバ

市内の宿营地から約一・五キロ離れた商店で買い物中に尋問され、広場へ連行された。日本大使館が政府軍と協議し、解放された。大使の申し入れを受け、南スーダン政府は「一部兵士の誤解だった」と謝罪した。

政府は二〇二二年一月、インフラ整備に当たる部隊の南スーダン派遣を開始。一三年十二月には政府軍と反政府勢力の衝突で治安が悪化し、当時の隊長が全隊員に武器携行命令を出したほか、宿营地外での活動を一時見合わせるなどの影響が出た。

一六年七月にも首都ジュバで大規模な戦闘が発生した。